

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「ふたりで かんがえよう」 教材名「これは、なんでしょう」

2 単元の目標

物の特徴を表す身近な語句を集め、問題の説明の中で使える。相手の出した手がかりに関心をもち、質問や付け足して話をつなげられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①物の特徴を表す身近な語句を集め、問題の説明の中で使っている。 (〔知識及び技能〕(1)オ)	①「話すこと・聞くこと」において、相手の出した手がかりに関心をもち、質問や付け足して応答している。(A(1)オ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

身近な物の特徴を使った問題を相談して作る。思い付いた手がかりを順に言うだけにせず、相手の案を聞いて付け加えたり、理由を尋ねたりして話を続ける。学習指導要領のA(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点項目に加え、本案では〔知識及び技能〕(1)オを活動に関わる事項として扱う。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

問題にする実物を見ながら、色・形・使い方などの特徴を言葉にする。教師が相手の案を受けて質問するやり取りを示す。言葉が出にくい児童には特徴の絵カードを用意する。おおむね満足できる状況は、相手の出した手がかりに関心をもち、質問や付け足して応答しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全4時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○身近な物を題材に問題を聞き、手がかりになる特徴を見つける。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○問題にする物を選び、相手の案を受けながら手がかりと出す順を相談する。	思①（発言・学習記録）
	3	○作った問題を出し合い、相手の反応を聞いて手がかりを直す。	学習状況を見て支援する。
第3次	4	○友達案を受けて話した言葉を振り返り、相談のよさ確かめる。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (2/4)

(1) 本時の目標

相手の出した手がかりに関心を持ち、質問や付け足しで話をつなげられる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「友達の手がかりを聞いて、付け加えたいことや確かめたいことはありますか。どの手がかりから出すか、どう相談しますか」 【めあて】身近な物の特徴を使った問題を相談して作る。 〈予想される児童の反応〉 ・その手がかりだとすぐ答えが出るから後にしよう。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「友達の手がかりを聞いて、付け加えたいことや確かめたいことはありますか。どの手がかりから出すか、どう相談しますか」 出題する役と答える役に分かれ、物の特徴を手掛かりとして伝える。聞き手は知りたい特徴を質問し、出題者はその質問に答える情報を付け足す。役を交代し、どのやり取りで物が分かったか話す。 〈予想される児童の反応〉 ・その手がかりだとすぐ答えが出るから後にしよう。 ・色だけでは別の物もあるから形も伝えたい。 ・友達の考えを聞いて使い方の手がかりを思い付いた。	問題にする実物を見ながら、色・形・使い方などの特徴を言葉にする。教師が相手の案を受けて質問するやり取りを示す。言葉が出にくい児童には特徴の絵カードを用意する。 想定する難しさ：それぞれの案を交互に言うだけで応答にならない。答えを当てる速さだけを競う。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 相手の出した手がかりに関心を持ち、質問や付け足しで応答している。 (質問と付け足しの応答の観察)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・友達の考えを聞いて使い方の手がかりを思い付いた。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「友達の手がかりを聞いて、付け加えたいことや確かめたいことはありますか。どの手がかりから出すか、どう相談しますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

